

都立羽村高等学校の生徒たちと意見交換会を行いました！



令和6年11月13日に羽村高校の生徒会役員、学校PRを担当する生徒の方に参加していただき、「ハム市議トーク会～^{はむこうせい}羽高生と市議会議員が語ってみた！？～」を開催しました。会の名称は羽高生が考えてくれました。

ハム市議トーク会は、意見交換を通じて若者の率直な意見やアイデアを直接聞き、それを市政や施策に反映できるよう議会を活発化させ、地域の未来をともにつくることを目的としています。今回の意見交換会では、「住み続けたいと思うまちとは？」「羽村高校の魅力」「羽村が盛り上がるために若者が欲しいイベント・場所は？」など、さまざまなテーマについて、グループに分かれて意見交換し、発表しました。

若い世代がどのようなまちに魅力を感じるか、住み続けたいと思うかについて意見交換する中で、「江戸街道公園には行ったことがあるが、動物公園や堰には行ったことがない」「もっと立ち寄りたくなる場所がほしい」といった率直な意見がありました。羽村高校の魅力については、「生徒同士が協力しあえる」「生徒が活躍できる行事が多い」「体育祭や文化祭がとても盛り上がる」など、羽高生が自ら語ってくれました。その他にも、「市議会議員になった理由は？」など、羽高生が積極的に質問しており、地域に関心を持ち始めている様子も伺えました。

羽高生は羽村市出身者ばかりではなく、羽村市以外から通学する生徒も多くいますが、今回の交流を通じて「羽村市のことをもっと知りたい」との感想を寄せてくれました。羽村市議会はこうした意見交換会を継続的に実施し、若い世代の率直な声を大切に受け止め、「住みたい」「活躍したい」と感じられる魅力ある羽村市を目指し、引き続き努力してまいります。

※今回の取組は、より開かれた議会運営のあり方について調査及び検討を行う「議会改革推進委員会」での提案事項から実現したものです。

議会活動報告

市議会議員は、定例会や臨時会のほかにも、各々が所属する委員会や一部事務組合等に関係する会議や視察、研修などにも出席しています。

令和6年11月1日～令和7年1月31日の主な活動

11月

- 5日 ■ 第9回議会運営委員会
■ 多摩都市モノレール建設促進及び公共交通
策特別委員会行政視察(青梅市)
- 7日 ■ 羽村・瑞穂地区学校給食組合議会定例会
- 11日 ■ 環境まちづくり委員会行政視察(株式会社
ココロ・日都産業株式会社)
- 12日 ■ 令和6年第2回羽村市議会臨時会
■ 第6回議員全員協議会
- 13日 ■ 令和6年第2回瑞穂斎場組合議会定例会
■ 羽村市議会・羽村高等学校意見交換会
「ハム市議トーク会」
- 15日 ■ 令和6年第2回青梅、羽村地区工業用水道
企業団議会定例会
- 19日 ■ 全国市議会議長会基地協議会第110回理事会
■ 環境まちづくり委員会行政視察(株式会社
NISSYO)
- 21日 ■ 令和6年第2回西多摩衛生組合定例会
- 22日 ■ 第14回議会改革推進委員会
- 25日 ■ 第10回議会運営委員会
■ 令和6年第2回東京都後期高齢者医療広域
連合議会全員協議会・定例会
- 26日 ■ 東京都市議会議長会定例総会
- 27日 ■ 令和6年第2回福生病院企業団議会定例会

12月

- 3日 ■ 第4回羽村市議会定例会(初日)
- 4日 ■ 第4回羽村市議会定例会(2日目)
- 5日 ■ 第4回羽村市議会定例会(3日目)
- 6日 ■ 第4回羽村市議会定例会(4日目)
- 10日 ■ 一般会計等予算審査特別委員会(補正予算)
- 11日 ■ 第4回総務委員会
■ 第6回環境まちづくり委員会

- 12日 ■ 第6回文教厚生委員会
- 17日 ■ 第11回議会運営委員会
■ 第15回議会改革推進委員会
■ 第3回基地対策特別委員会
- 18日 ■ 第11回広報委員会
- 20日 ■ 第4回羽村市議会定例会(最終日)
■ 第7回議員全員協議会
- 27日 ■ 第12回広報委員会

1月

- 7日 ■ 令和7年第1回議会運営委員会
- 8日 ■ 三多摩上下水及び道路建設促進協議会第3
委員会
- 9日 ■ 令和7年第1回羽村市議会臨時会
■ 令和7年第1回広報委員会
- 14日 ■ 令和6年度議員研修会(地球温暖化)
- 15日 ■ 令和6年度議員研修会(多様な性ってなん
だろう)
■ 文教厚生委員会所管事務調査(羽村私立保
育園協議会との懇談会)
- 17日 ■ 三多摩上下水及び道路建設促進協議会第2
委員会
- 21日 ■ 第16回議会改革推進委員会
- 22日 ■ 文教厚生委員会所管事務調査(羽村市私立
幼稚園協会との懇談会)
- 28日 ■ 三多摩上下水及び道路建設促進協議会第1
委員会
■ 全国市議会議長会基地協議会第111回理事
会・第88回総会
■ 令和7年第1回東京都後期高齢者医療広域
連合議会全員協議会・定例会
- 29日 ■ 文教厚生委員会市民インタビュー(羽村市
私立幼稚園保護者連合会)

お詫びと 訂正

第148号(令和6年11月1日発行)の7ページに掲載のキャプション名に誤りがありました。正しくは「女性に対する暴力をなくす運動の期間に行われている生理用品の無償配布」です。お詫びして訂正いたします。

総務委員会

行政視察報告

10月23日～10月24日に、奈良県橿原市と奈良県吉野郡下市町を視察しました。

▼視察報告書



視察の目的

羽村市は、令和6年3月に羽村市公共施設等総合管理計画を改定し、公共建築物の総量を30%程度縮小していくことを長期的な目標とした。

これを受け、公共施設のマネジメントやコミュニティ等について学ぶ。

〈奈良県橿原市〉

公共施設の複合施設化とPFI事業について

日本国はじまりの地

奈良県の中央に位置する橿原市は長い歴史の中で日本の礎を築いてきた場所である。万葉集に詠わ

れた大和三山（畝傍山）がそびえ、

その中央には、日本史上、最初で最大の都であった藤原京跡がある。

古い町並みの残る街道や古墳など歴史的文化遺産が市内に点在し、

この国の歴史と文化の移り変わりをみることが出来る町である。全国初の複合施設として建設された

ミグランス。再び、この地から新たな日本の公共施設複合化の礎が築かれる可能性がある。

駅前未利用地の活用

橿原市は近鉄八木駅南整備事業により、未利用だった駅前の土地をPFI方式で市役所と宿泊施設等の複合施設として整備・建設した。この複合施設は、市章にある鳥の「トビ」の学名から「ミグラン

ス」と名付けられ、分庁舎を中心とした、宿泊・飲食・会議室を含む全10階建ての建物である。1階から4階に庁舎、5階から10階に民間企業が運営する宿泊施設のランドオホテル奈良橿原、最上階に展望施設がある。



▲ミグランス最上階の展望施設

3回のPFI事業の検討

PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）とは、民間の資金・経営能力・技術力を活用し、公共施設などの建設や設計、維持管理・運営などを実施する公共事業の一形態である。

平成13年・20年の二度、PFI事業は白紙になった。地区計画の変更や整備手法の改善などを行い、平成26年に実施計画を公表し、民間企業とのパートナーシップにより設計・建設した。

PFI方式の利点に、初期投資の軽減や施設管理コストの最適化

が挙げられる。

市の負担を最小限に抑えつつ、ホテルや商業施設などの収益性のある事業と連携することで、公共施設の維持管理費用が抑制される。また、ホテルとの連携で、周辺地域経済の活性化にも寄与する。このように、財政面と地域活性化の両面で多くのメリットを生む。

羽村市のこれから

羽村市は、昭和54年に建てられた市役所庁舎を始め、公共施設の多くが老朽化している。将来的には、建て替えも含めた公共施設の整理統合が必要な時期を迎えることになる。人口減少による税収減や財政の硬直化などが懸念される中、歳入を増やす取組や民間の知恵と資金を使い、公共施設の修繕や建設を効率的に進めることが必要である。

市民に質の高い公共サービスを提供し、適切な公共施設のマネジメントを行う上で、このPFI方式を採用した公共施設の整理統合は持続可能な公共施設の運営として期待される。

〈奈良県吉野郡下市町〉

廃校活用・官民連携・ファシリティマネジメント・地域づくりなどの取組について

空き校舎を賑わい拠点として事業者と連携したまちづくり

奈良県の南半分を占める吉野郡の北西部に位置している下市町は、人口5000人弱の小さな町でありながら、地域づくりの様々な取組を行っている。

令和2年4月、小中一貫義務教育学校「下市あきつ学園」の建設により空き校舎となる旧小・中学校の利活用について役場内にファシリティマネジメントプロジェクトチームを立ち上げた。このプロジェクトチームは全職員の約2割がメンバーとなり、部局横断型で、人事異動に影響されず、施設整備まで同じメンバーで行う。

サウディング型市場調査で民間事業者の活用案を調査し、結果を受け、事業者を募集。活用した事業者と連携し、使われなくなった施設が町の「賑わい拠点」として生まれ変わり、まちづくりが進

展した。

そして、各賑わい拠点の取組・運営を持続させ、町全体の賑わい創出事業を推進するため、町・商工会・観光協会・事業者・奈良女子大学など15団体が構成する、産・官・学・地域が連携した「下市町賑わい創出協議会」を設立した。

体験型複合施設KITO

実際に活用施設の一つであるKITO（元下市南小学校）を視察した。KITOは、校舎を再び人が集まる場所、観光拠点として、ショップ・カフェレストラン・ベーカーリー・キッズスペース・マルシェ等を備える体験型複合商業施設であり、民間事業者が運営している。

地元の食材を使ったオリジナル商品の開発・販売や、元体育館を活用した子供たちの遊び場であるウッドパークなど、観光客だけでなく地域の賑わいがある場所となっていた。



▲KITO外観（上）とウッドパーク

住民が自ら考え行動することを応援する「元気印集落」事業

下市町では、将来をイメージしながら、住民が自ら考え行動することを応援する事業「元気印集落事業」にも取り組んでいる。

この事業は人口が減っても地域コミュニティを守り、事業を続けることを目指している。

地域集会所を有効活用した移住促進ゲストハウス、清流に囲まれた宿を自治会が運営し、収益の一部が自治会の運営費に入る仕組みとなっている。

学んだことを羽村に活かす

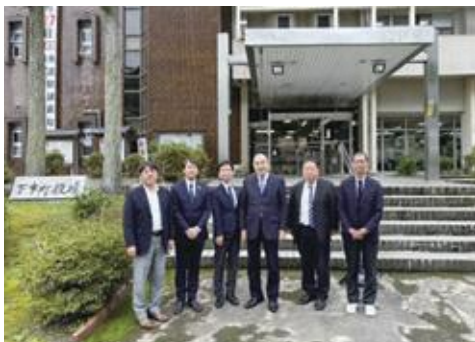
羽村市では今後、公共建築物の総量を30%程度縮小していくことを長期的な目標としている。また、教育委員会としても将来的な

児童・生徒数の減少を踏まえつつ、市の未来を担う子供たちに持続可能で充実した教育環境を整備するために、市立小・中学校の再編について検討していく考えである。

下市町の「空き校舎を賑わい拠点として事業者と連携したまちづくり」や「住民が自ら考え行動することを応援する事業」は持続可能なまちづくりとして重要な取組であり、羽村市の課題である「人口減少に対応し、将来にわたって安定的かつ時代の求めに応じた行政サービスを提供すること」や「地域コミュニティの活性化」に活かせる内容で大変参考になった。

▼下市町での集合写真

（左から富松委員、野崎委員、中嶋委員、濱中委員長、馳平委員、鈴木副委員長）



環境まちづくり委員会

行政視察報告

10月4日にコダマコーポレーション株式会社、11月11日に株式会社ココロと日都産業株式会社、19日に株式会社NISSYOを視察しました。

▼視察報告書



視察の目的

市内にある企業の操業状況や変化の激しい時代を生き抜く取組等を視察することで、委員の知識を共有し、市の産業振興政策に生かす。

コダマコーポレーション株式会社 試作部・加工技術研究所

事業内容について

高度な加工技術で試作品を造る

コダマコーポレーション株式会社は、本社を横浜市に持ち、平成16年に羽村市栄町に試作部・加工技術研究所を移転・拡充した事業所である。

事業所の特徴は3つある。一つ目は、試作品の設計から製造までをCADやCAMというシステムソフトウェアを駆使し、一人のエンジニアが一通貫で製作することである。これにより短い納期にも対応でき、加工現場の無人化を実現していた。

二つ目は人材育成である。このようなエンジニアの育成は優れたテキストとCAD/CAM技能認定、機械別操作認定の試験をクリアするまで何回も受ける教育システムによるところが大きい。

3つ目はアルミ、ステンレス、チタン、耐熱鋼材などあらゆる材質の材料を自在に加工する技術を持っていることである。蓄積されたノウハウは全てのエンジニアに共有され、活用できる状態になっている。



▲試作品の一つ
(自動車のパーツ)

市内に立地する多くの工場に、可能な範囲でノウハウを水平展開し、市内の産業振興に貢献していただきたいと感じた。

株式会社ココロ

恐竜が羽村に

ココロは「心」から

恐竜は約6600万年前に絶滅した巨大生物でロマンがあります。

そんな人気の恐竜をロボットでよみがえらせたら、みんなワクワクするでしょう。ロボット作りの起点は「心」であり、皆さんに感動を贈りたい思いが社名に込められています、という。

株式会社ココロはエンターテインメント・ロボット開発の先進企業。直近で製作した福井駅前にある体長10mの恐竜ロボットは大きな口を開けてうなり声を上げて人気だ。ロンドン、上海、アメリカ自然史博物館などにも納品しており、企画から完成まで3年近くかかるものもある。販売価格は1体で3000万〜1億円とのこと。

また、恐竜だけでなく会社の受付や医学教育用の患者、地雷除去ロボットなども製作。

羽村では栄小学校の「あこがれ・夢広場」でのワークショップや、はむら市民と産業のまつりでロボットを展示した。

瑞穂町の倉庫にはレンタル用に50体以上の恐竜ロボットが保管されていた。「羽村に倉庫用施設があればそこで展示しつつ、保管ができる嬉しい」と担当者。是非実現してほしいと思った。

日都産業株式会社は、ぶらんこ、すべり台、鉄棒、ジャングルジム等、公園・学校を彩る様々な遊具・健康器具の専門メーカーである。1944年創立。遊具を作り続けて70年以上になり、1978年9月に羽村工場を開設した。

戦前は飛行機の椅子等を作っていたが、戦後はこれからの日本の復興を担っていく子供たちに「遊具や体育器具を通して健康な人になってほしい」との想いから遊具

〈日都産業株式会社〉 市内企業状況について

公園ぶらんこのシェアは 全国トップクラス！



▲台湾へ輸出する圧縮空気動く、巨大恐竜ティラノサウルス

づくりを開始。デザイン、製造を自社で行っている。世界初の、球形の回転式ジャングルジム「グローブジャングル」も開発した。

工場を視察し、利用者が安心して遊べるよう、丁寧な作業と遊具づくりへのこだわりを感じた。

羽村市と日都産業株式会社は、令和5年12月から5年間のネーミングライツパートナー協定を締結。江戸街道公園の愛称を「にっぽーく」とし、インクルーシブ遊具等を提供している。担当者は、「にっぽーく」を「日本一のインクルーシブ公園にしたい」と抱負を語ってくれた。大いに期待したい。



▶ (上) にっぽーくにあるインクルーシブ遊具
(下) ロッキング遊具のカタツムリ

〈株式会社NISSYO〉

※ニッチ市場で売上伸長・ 市内企業の取組について

業務改善や人材育成等

株式会社NISSYOは羽村市内に立地し、トランスや電源装置等の設計から製造・メンテナンスまで一気通貫で行える技術力を基に、特注品に注力している電源機器等の開発メーカーである。

2015年に業務にiPadを導入して以降、DXを強力に推進している。社内で運用されている様々な業務システムの多くは、従業員が開発している。DXへの取組が評価され、2022年に経済産業省の「DX認定」を取得し、2024年には「DXセレクション2024」の優良事例に選定された。

社員教育の費用は一人当たり約48万円と、他の企業と比べて突出して高い水準にある。

従業員が市内に引っ越し場合、引っ越し手当を支給しており、現在従業員のうち31名が羽村市民となっている。

視察を終えて

市内に立地する企業は地域経済や雇用を支える重要な役割を果たしていることを改めて実感した。また、行政と民間企業で組織構造に違いがあるものの、組織の在り方を学ぶ貴重な機会となった。

※ニッチ市場：特定のニーズを持つ規模の小さなマーケット



▲見学の様子

文教厚生委員会

行政視察報告

5月16日に東京都立川児童相談所、10月23日・24日に宮城県牡鹿郡女川町・東松島市を視察しました。

▼視察報告書



視察の目的

宮城県牡鹿郡女川町・東松島市

教育委員会は、令和6年3月に「これからの羽村市立学校の在り方について」を公表し、市立小・中学校の再編を検討する必要があると示した。これを受け、先行自治体の取組を学ぶ。

〈宮城県牡鹿郡女川町〉

施設一体型

小中一貫教育について

女川町と震災

女川町は、宮城県東部に位置し、新鮮な魚介類を活用した観光産業が中心の町である。東日本大震災では、中心部の市街地等も津波の

甚大な被害を受けた。

町内には小学校が3校、中学校が2校あったが、震災後は、小・中学校各1校しか再開ができず、日々の教育活動が制約されていた。

大人が「自分ごと」で

子供たちの教育を考える

そのような状態が続く平成24年、子供たちを支える全ての大人が「自分ごと」として教育を考え、語り合い、町の目指す子供の姿の実現に向けた構築のため、「女川の教育を考える会」を発足した。

同会は「今後の町立小・中学校の在り方、方向性について」を報告し、小・中学校を各1校とすること、小中一貫教育の段階的推進、教育複合施設の創設等を提言した。

小中一貫教育学校を

町の中心部に移設

提言を受け、平成25年4月に小・中学校が各1校になった。学校施設は震災後に集約した各校舎を引き続き使用したが、復興後の住宅配置を踏まえると、適切な場所とは言えなかった。

そこで、施設を集約し、施設一体型小中一貫教育学校を町の中心部に移転した。令和3年度に、施設一体型小中一貫教育学校による教育活動が本格的に始動し、これにより小・中学校の9年間の継続した生徒指導や学習指導が可能となった。

視察を終えて

羽村市はこれから「公共施設再配置計画」を策定し、学校再編も進める予定である。市民との対話を踏まえ、利便性の高い学区の中心部への学校建設など、通学にも配慮した場所の選定を考えていく必要がある。

また、女川町では、スクールバスが3台稼働していた。羽村市の方が面積が小さいが、通学の安全

確保も今後の課題として取組んでもらいたい。



▲町の中心部に建設した施設一体型小中一貫教育学校

〈宮城県東松島市〉

学校施設の統合について

東松島市と震災

東松島市は、日本三景「松島」の奥松島を抱える観光地である。東日本大震災では、津波による壊滅的な被害を受け、市街地の約65%が浸水した。

震災後、^{みやと}宮戸小学校は体育館を避難所として活用しながら学校を再開。津波被害の大きかった野蒜小学校は、市役所庁舎や仮設プレハブ校舎を使用し、教育活動を行っていた。

児童減少により複式学級になっていたことから、教育委員会は市

立小学校教育の統合を検討することにした。

市民の思いを踏まえた統合に

統合にあたり、市は各地域に足を運び状況を聞いた。市民主導で話し合いを進め、アンケート調査なども実施した。

この結果をもとに地域の有識者、教員などで構成された「学校教育復興講話会」での意見聴取や、地域住民の思いを出し合う場として「教育復興を語る会」を6回開催した。そして、平成23年に学校教育復興計画検討委員会を設置し、地域住民の思いを踏まえたうえで、市としての方向性を示した。

平成24年に東松島市教育復興基本方針を策定した。その中で、統合後の宮野森^{みやのもり}小学校は、「森の学校」をコンセプトに、森の学校推進アドバイザーであるC・W・ニコル氏の助言を受け、木造校舎にすることとした。

また、震災で使用しなくなった校舎も、現在は様々な形で活用をしている。例えば、旧・野蒜小学校は、防災知識を学ぶ体験と宿泊を兼ねた複合施設「KIBO^{キボ}OTCHA^{オチャ}」

として利用されている。

視察を終えて

市民の意見を真摯に受け止めるこのような姿勢はこれからの学校再編を考える中でも重要な要素であると感じた。



▲宮野森小学校の教室
家族のように皆で協力する姿勢を育む意図から、教室内に屋根を作った

視察の目的

東京都立川児童相談所

子供を取り巻く環境が多様化し、一層役割が重要となっている立川児童相談所の現状と課題を学ぶ。

〈東京都立川児童相談所〉

児童相談所の現状と課題

相談件数の増加と課題

立川児童相談所は、令和6年か

ら区域を3つの担当地域（ブロック）に分け、相談・虐待対応を行っている。各ブロックは、チーフ・児童福祉司・児童相談所業務事務員の10名前後で構成している。

ブロック	担当自治体
A	立川市 国分寺市 福生市
B	青梅市 羽村市 瑞穂町 奥多摩町
C	昭島市 あきる野市 日の出町 檜原村

▲立川児童相談所の担当区域

平成12年に「児童虐待の防止等に関する法律」が改正され、虐待の基準に心理的虐待が加わった。これは、身体的虐待・性的虐待・ネグレクトの他に、新たに、夫婦喧嘩や子供の目の前で暴力を振るうなど、子供に心理的な傷を負わせることであり、相談件数は増えている。

令和4年度の相談受理件数は2751件で、そのうち被虐待件数は1566件。法改正に伴い警察への通報が増加し、警察経由の相談件数が863件あった。次いで、家族・親戚から、近隣・知人からの相談件数が多くなっている。

児童相談所は法的対応をする場所であり、地域の支援は自治体（子

ども家庭支援センター）が行う。しかし、高校中退などで行き場やつながりがない16歳から18歳までの子供を児童相談所につなぐことが難しく、課題となっている。また、家庭状況は、すぐには改善されず、長期的に関わっていくことも多く、家庭に出向き対応する件数が増えている。

相談件数の増加に対応し、職員数も増やし、保護担当は夜勤・交代制で常時対応していた。児童相談所の方からは、幼稚園・保育園・小・中・高等学校など、子供の身近な場所にいる大人達が子供をしつかりと見ることが大事であり、そのような場から児童相談所へつなげてほしいとのことだった。



▲左から石居委員、浜中副委員長、門間委員長、金子委員、菅委員

しぎかいカレンダー

●第1回定例会(3月)の予定●

日	月	火	水	木	金	土
					2/14 陳情メ	15
16	17	18 議運	19	20	21	22
23	24	25	26 本会議	27 本会議	28 本会議	3/1
2	3	4 予特 (補正)	5 本会議	6 常任委	7 常任委	8
9	10	11 予特	12 予特	13 予特	14	15
16	17 議運	18	19	20	21 本会議	

■陳情メ…請願・陳情の3月定例会審議予定分の締切
 ■議運…議会運営委員会
 ■常任委…常任委員会(総務、環境まちづくり、文教厚生)
 ■予特(補正)
 …一般会計等予算審査特別委員会(令和6年度補正予算)
 ■予特…一般会計等予算審査特別委員会(令和7年度予算)
 ※会議の予定は変更になる場合があります。
 詳細は議会事務局までお問合せください。

議会を見よう！知ろう！

～次の定例会は3月～

以下の方法で議会をご覧いただけます。

- 1 議場で傍聴 ライブで！**
当日、市役所4階の議会事務局にお越しください。
- 2 ケーブルテレビで生中継**
多摩ケーブルネットワーク(TCN)で、本会議の様子を生中継でご覧になれます。放送日は横のカレンダーをご参照ください。
- 3 インターネットで録画中継**
開催日の3日後(土・日曜日、祝日を除く)から、インターネットで録画中継を見ることができます。
- 4 会議録で読む**
会議終了後2か月程度で会議録ができあがります。冊子または、羽村市公式ウェブサイトから見るることができます。

羽村市公式サイト

<https://www.city.hamura.tokyo.jp/>

羽村市議会

検索



編集後記

広報委員会では、どなたでも理解できるように写真などを活用し、「わかりやすく」「読みやすく」「親しみやすい」をコンセプトに、市民の皆様に「伝えること」を心掛けて編集に取り組んでいます。

編集会議では、各委員が活発に意見を交わし、「てにをは」の助詞だけでなく、文法や語句が正しく使われているか目を配り、校正にあたっています。

今号では、議会改革推進委員会の検討事項であった「再質問の掲載」が「試行実施」として形になっていますので、ぜひご注目ください。

委員一同、今後も丁寧に「しぎかいのトビラ」を作ってまいります。ぜひお気軽に、ご意見・ご要望をお聞かせください。

(池澤)

【広報委員会委員】

富永訓正(委員長)
 濱中俊男(副委員長)
 池澤敦 野崎和也
 金子ひとみ 高田和登
 浜中順

発行/羽村市議会 編集/広報委員会

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5-2-1 Fax 042 (555) 0889
 Tel 042 (555) 1111 (内線412~414)



「しぎかいのトビラ」は再生紙を使用しています。